

佐久市協働のまちづくり推進会議 会議記録（要旨）

日 時：令和3年4月27日（火）

13：25～14：47

場 所：佐久市役所701会議室

出席者：佐久市協働のまちづくり推進会議委員10名（欠席2名）

事務局（企画部長・広報広聴課長・広報広聴課職員）4名

1 開会

2 会長あいさつ

（事務局職員 自己紹介）（自己紹介後、企画部長は公務のため退席）

3 会議事項

（1）佐久市協働のまちづくり計画の成果と課題の検証について

ア 事務局より佐久市協働のまちづくり計画の成果と課題について説明

委員からの課題についての意見として、協働に関する更なるPR活動、情報発信の具体的な方法の検討、関心を持ってもらう方策、コロナ禍におけるリモート参加を含め、多様な参加方法の追求などが必要であること、あらゆる人材育成のための講座を継続して開催するほか、各種講座や仲間づくりの場から、リーダーとなる人材を見つけ、育てていくことが必要であること、イベント等において、学生や若い世代などが参加しやすい工夫と興味をひく内容の検討が必要であること、市が必要とする協働が何か、市民とともに考える場が必要であること、サポートセンターの役割と機能の明確化、スタッフのスキル向上と地域の情報収集、市域全体におけるサポートが必要であること、などが挙げられた。これらの課題解決のための対応、取組を、第2次計画へ盛り込んでいく。

イ 課題について意見交換

委員 アンケートや住民説明会で出た意見がどう市政に反映されているのかみえない。

委員 台風19号の被害を受けた地域住民が自ら復興計画に立ち上がっている事例など、そうしたことをきちんと評価するべき。

委員 コロナの影響で今まであった地域の絆が失われている。これをどうやって繋いでいくかも課題である。

委員 支え合い組織の関係は議論が進んでいないと感じるので、今後の取組を具体的に示してもらいたい。

委員 サポートセンターは情報発信力はあるが、吸い上げるルートがあまり見えない。

委員 サポートセンターの機能と役割をもっと明確化するべき。住民を主体とした意見交換会を重ねる中で、SAKU未来100人会議の代わりにできるものができるのでは。

委員 サポートセンターのスタッフのスキルアップが重要。

委員 スタッフは工夫しながらよくやっている。推進会議とサポートセンターとの意見交換の場が必要。

委員 自分たちの意見が反映されて目に見えてくると、主体的にまちづくりをしている実感がわいてくる。サポートセンターは野沢地区だけってというイメージがあるので、エリア別にそういうところがあったらいいと思う。情報や課題を整理して意見を出し合ってから上へあげていく、ファシリテート能力が重要で、座談会などで出した意見がその後どうなるのかはとても大事な視点だと思う。パブリックマインドを持っている人達の気持ちをないがしろにしないでほしいと思う。

委員 望月地区など、若い方から年配の方まで活発に活動されている取組をモデルとして紹介して展開できればいいと思う。

講評（会長より）

サポートセンターに関する意見が多いのは、それだけ期待が大きいということの現れなので、次期計画において役割の明確化、位置付けをきちんと整理するようにお願いしたい。また、コロナの影響で社会がどう変わっていくかが見えず、難しい課題だが、そういうことも視野に入れていく必要がある。

（２）第２次佐久市協働のまちづくり計画について

ア 事務局より第２次佐久市協働のまちづくり計画の策定スケジュールについて説明

前回の会議で提示したスケジュールから、骨子案の作成・審議に時間をかけて丁寧に行う形で少し変更をした。10月の推進会議の委員改選をまたぐ形となるが、新旧委員の皆さんへの説明をしっかりと行ってご審議いただく予定。

４ その他

事務局：次回の会議は6月に開催予定、優良事業表彰について審議予定

５ 閉会